

AMDA Journal 号外

ダイジェスト

発行：2005年8月 No.23 定価：100円
 発行元：〒701-1202 岡山市橋津310-1
 特定非営利活動法人 AMDA (アムダ)
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail : member@amda.or.jp
 編集：AMDA Journal 編集室
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

スマトラ沖地震・津波復興支援プロジェクト

AMDAはスマトラ沖地震・津波により最も被害を受けたインドネシア・スマトラ島北部ナンゴラアチェ州バンダアチェにおいて、6月より本格的に復興支援活動を開始しました。なお、緊急救援時から実施してきました巡回診療、子どもの心のケアの一環としての移動図書館活動は継続し、さらに保健衛生教育等も盛り込んでいます。

医師・看護師への緊急医療強化プログラム

最大の被害を受けたバンダアチェでは、医師・看護師等医療の技術職の死者行方不明者が、691名にもものぼり医療従事者不足の状況に陥っています。麻酔科医は1名しかいないという状況です。また、病院関係者や行政機関から緊急時に機能的に対応すべき医師と看護師のための専門的な訓練が必要であるとの見解が示されたため、緊急災害対応人材育成プログラムを行うことになりました。インドネシア国内では、南スラウェシ州マカッサルのワヒディン病院内に、国内発の緊急災害センターと緊急災害チームが設置されており、その分野では国内最先端のノウハウを持つ教育機関です。津波直後からこれまで、マカッサルは行政単位でも、バンダアチェのザイナルアピディン病院を支援してきました。AMDAは、この最高レベルのワヒディン病院、同じくマカッサルにあるハサヌディン大学、同州保健行政機関との連携のもとに、このプログラムを開始しました。

ザイナルアピディン病院を拠点とし前述の病院、大学から講師を招き、(1) 医師・看護師のための救急医療訓練、(2) 緊急事態準備としての医療・保健行政機関合同研修、(3) 公衆衛生(Public Health)専門家の緊急事態管理研修、等を行っていきます。

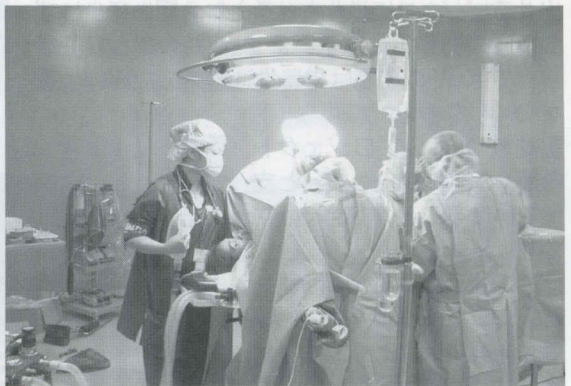
地域コミュニティの災害時対応能力強化プログラム

「災害の原因や対応策について、一般住民が十分な知識を持っていないことが災害の被害を大きくする。」という報告を地元保健行政機関から受け、救急医療に加え災害後の感染症の予防に必要な公衆衛生教育を含めた医学部生対象のトレーニングを実施します。トレーニングを受けた医学生は、コミュニティに入り、トレーナーとして避難訓練や災害時に必要な保健衛生知識の普及活動を行うことで、地域への草の根レベルの災害時対応トレーニングの浸透を目指します。

(1) 医学生への人工呼吸蘇生法、救急処置、(2) 災害後の感染症予防対策などの観点から、公衆衛生に関する研修、(3) 医学生による各被災地の住民及び中学高校生を対象とする巡回公衆衛生教育活動・救急処置教育、避難訓練と公衆衛生の教材作成、等を行っていきます。(成澤 貴子)



巡回診療と移動図書館



医療従事者への医療技術トレーニング (麻酔科)



子どもたちへの保健衛生教育

報告書できました

昨年10月11日に岡山国際交流センターで行ったHIV/エイズ AMDA実践報告セミナーの報告書ができました。今や地球規模の問題となっているHIV/エイズ。日本の国際協力としての取り組み、身近な地域での保健所や若者の取り組みに加え、AMDAがこれま

で中南米やアフリカ、アジアの各地で重ねてきた経験をこれからどのように日本の学校教育の中で生かしていくか、その長い歩みの初めの一步が記されています。関心をお持ちのみな様、どうぞ活用ください。ご希望の方に郵送料込み1000円でお付けします。

詳しいお申し込み方法などは、AMDA広報室 奥谷 (TEL086-284-7730 E-mail member@amda.or.jp) までお問い合わせください。



ザンビア

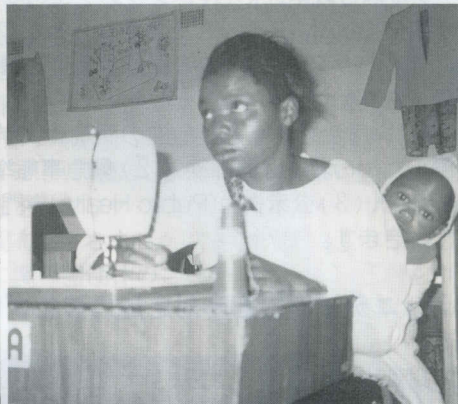
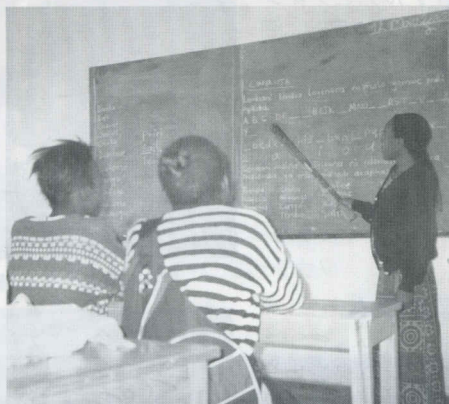
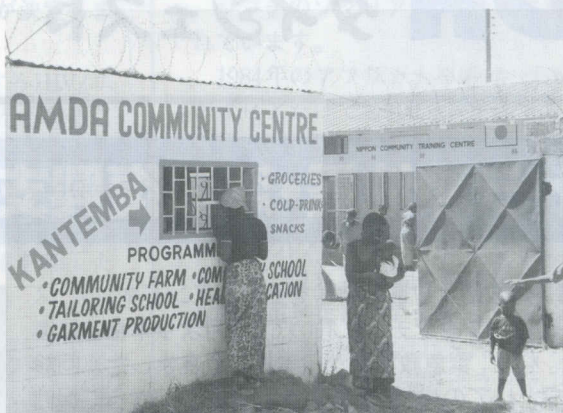
コミュニティ開発プロジェクト

包括的な開発ユニット 発展の可能性

AMDA ザンビアの保健と 農業開発のユニット

AMDAは1997年からザンビアのジョージ地区で活動していますが、一つの中心的な事業は栄養推進の事業です。保健省から農園用の約3ヘクタールの土地を借り、雨季にはボランティアの力を借りて大豆を栽培し、たんぱく質の豊富なものとして栄養の高い食生活を推進してきました。AMDAが栽培した大豆を栄養推進の住民組織に提供し、その住民組織がコミュニティを回り、大豆料理を教えながら安く大豆を提供することになっています。せっかくの広い農園は、雨季にしか使えていませんでした。農業の収益を上げ、自立運営を目指すために、2004年の年末から一年中(乾季でも)農業ができるように水道システムを導入し始めました。また、大豆だけでなく、トマト、キャベツ、玉ねぎ、茄子、オクラ、かぼちゃなど商品価値の高い多様な農作物の栽培を始めました。さらに養鶏所を二つ建て、全体的に利益が出せるビジネスに進化させるという狙いで少しずつ農園の開発を進めています。収益事業として成り立てば、その農園は栄養推進事業のための大豆をつくりながら結核事業(下記結核DOTSプロジェクト参照)をこれからもずっと支えていけることができますはず

このように、AMDAはザンビアのジョージ地区での保健活動を経済活動とリンクさせました。保健活動を一つの開発ユニットに組み込んで金銭的にも組織的にも完全に自立運営できるような形を目指そうとしています。



AMDAは、同じ農園の敷地内での活動を行っています。裁縫教室は、技術を学び経済的に自立した生活職業訓練を行っています。コミュニティでは、何らかの理由で学校に通いが公立の小学校と同じカリキュマます。

生徒からはわずかな授業料を、これは先生の給料、教科書、ミスなどの活動費を支えるほどの収まません。足りない活動費は農園のという形になります。そこで、生を中心に裁縫ビジネスを始めた。卒業生がトレーニングセンター、作業服、私服などを作って販を支えるための収入源ですが、卒一トという意味もあって効果的裁縫ビジネスがあれば何人かに一限な経験を与えることができます。な収入源として、同じ敷地内の二ターで小さな雑貨屋を始めました。鶏を販売すると同時に冷たい飲

常雑貨なども販売して、すべての活動をつなして長期的に考えると組織に頼らない現地自立した、栄養推進、結核保健教育、コミュニティ訓練などと包括的なできる組織になります。て、AMDA ザンビアで開発事業、ビジネス、組織におけるシステムれています。(Vi

結核DOTSプロジェクト



結核という病気は日本では過去の病気というイメージがありますが、途上国ではとても深刻なもので、結核DOTS(直接監視下短期化学療法、Directly Observed Treatment Short-course)の導入によって一時的にその勢いが弱まったものの、HIV/エイズの出現によってアフリカ諸国を中心に爆発的に広まっています。

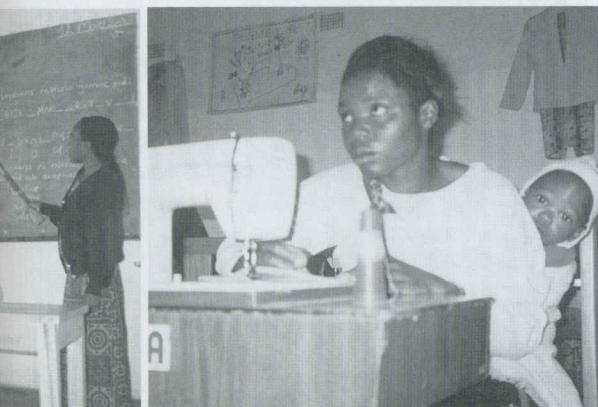
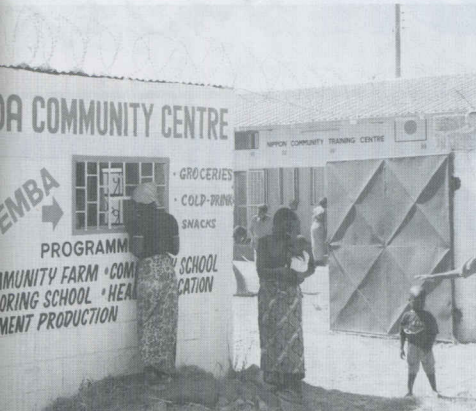
結核の治療には(ザンビアでは)、8ヶ月間、毎日薬を飲み続ける必要があり、その服薬を途中

で停止してしまうと薬剤耐性結核が発生して、地域の結核の状況はとても深刻なものになってしまいます。ザンビアでは途中で治療を止めてしまう患者が40%にもぼり、結核対策を進めていく上で大きな問題となっていました。結核DOTSプロジェクトというのは、サポーターといわれるボランティアが結核患者の服薬を8ヶ月間監視し、確実に結核患者を治療するという活動を主とした活動です。

AMDA ザンビアでは2004年2月から結核DOTSプロジェクトをジョージコンパウンド内で開始しました。ジョージコンパウンドは人口が12万人もいるルサカ市内でも最大のコンパウンドの一つで、コンパウンド内は27の小さなゾーンに分かれています。このプロジェクトでは対象地域をその内の6つのゾーンに絞り、2月に各ゾーンから4名ずつとジョージクリニックか

ら6名の合計30名に対してトレーニングを養成しました。実際年4月から始まり、以降患者の服の家族に対する健康教育、地域内の場所での健康教育、クリニックの補助、新規結核患者の発見などいます。サポーター達は地域の人の意思を持ってこのプロジェクトをやるのですが、今後は彼らにもっと体を見る視野を持ってもらいたく地域の結核患者のデータ収集と分たトレーニングも行っています。名を超える結核患者がこのプロジェクトで、80名以上が治療を終えることまた、2004年に登録された患者治療を止めてしまった患者の割合ることができました。

開発プロジェクト



包括的な開発ユニットへの発展の可能性

AMDAは、同じ農園の敷地内でその他のいくつかの活動を行っています。裁縫教室とコミュニティ・スクールです。裁縫教室では、地区の住民が技術を学び経済的に自立した生活ができるように職業訓練を行っています。コミュニティ・スクールでは、何らかの理由で学校に通えない子どもたちが公立の小学校と同じカリキュラムで学んでいます。

生徒からはわずかな授業料をとっていますが、これは先生の給料、教科書、ミシンのメンテナンスなどの活動費を支えるほどの収益にはなっていません。足りない活動費は農園の利益でカバーするという形になります。そこで、裁縫教室の卒業生を中心に裁縫ビジネスを始めることにしました。卒業生がトレーニングセンターのミシンで制服、作業服、私服などを作って販売します。教室を支えるための収入源ですが、卒業生の進路サポートという意味もあって効果的だと考えます。裁縫ビジネスがあれば何人かに一時的な就職と貴重な経験を与えることができます。もう一つの小さな収入源として、同じ敷地内のコミュニティセンターで小さな雑貨屋を始めました。農園の野菜や鶏を販売すると同時に冷たい飲み物、つまみ、日常雑貨なども販売しています。

すべての活動をつなげてみると、そして長期的に考えると、外部の資金・組織に頼らない現地レベルで完全に自立した、栄養推進、結核治療サポート、保健教育、コミュニティ・スクール、職業訓練などと包括的な地区開発活動ができる組織になります。これを目指して、AMDA ザンビアでは住民参加型の開発事業、ビジネス、そして全体的な組織におけるシステムづくりに力を入れています。 (Virgil Hawkins)

止してしまうと薬剤耐性結核が発生して、結核の状況はとても深刻なものになっています。ザンビアでは途中で治療を止めた患者が40%にもものぼり、結核対策を進めなく上で大きな問題となっていました。結核Sプロジェクトというのは、サポーターとされるボランティアが結核患者の服薬を8ヶ月監視し、確実に結核患者を治療するというこ主とした活動です。

AMDA ザンビアでは2004年2月から結核Sプロジェクトをジョージコンパウンド内始しました。ジョージコンパウンドは人口1万人もいるルサカ市内でも最大のコンパウンドの一つで、コンパウンド内は27の小さなゾーンに分かれています。このプロジェクトでは地域をその内の6つのゾーンに絞り、2月以降から4名ずつとジョージクリニックが

ら6名の合計30名に対してトレーニングを行い、サポーターを養成しました。実際の活動は2004年4月から始まり、以降患者の服薬の監視、患者の家族に対する健康教育、地域内の人が多く集まる場所での健康教育、クリニックの結核コーナーの補助、新規結核患者の発見などの活動を行っています。サポーター達は地域の人々を助けたいという意思を持ってこのプロジェクトに参加しているのですが、今後は彼らにもっとプロジェクト全体を見る視野を持ってもらいたいということで、地域の結核患者のデータ収集と分析に焦点を当てたトレーニングも行っています。これまでに250名を超える結核患者がこのプロジェクトに登録され、80名以上が治療を終えることができました。また、2004年に登録された患者のうち、途中で治療を止めてしまった患者の割合も9%まで下げることができました。 (藤本 悌志)



公開誌

今年もま

被災地に

大型台風や大地震、熱帯林火災に象徴されるように、災害はすでに地域の問題だけではなく、より広域の国境をこえた相互防災体制の求められています。また、官庁・市民・専門を緊急時に連携する複合的な活動協力体制とための緊急対応システムの構築が急務となります。新潟県中越地震やスマトラ沖地震・津波の救援活動を踏まえながら、個々の地域や立の災害論を超え、総合的な視点からの災害対応り方と可能性について検証します。

皆さまのご参加をお待ちしています。

スリランカ

北東部 保



↑ 産科棟開所式 ↓



AMDA 健康新聞を用いた小学校での健康教育

ザンビア

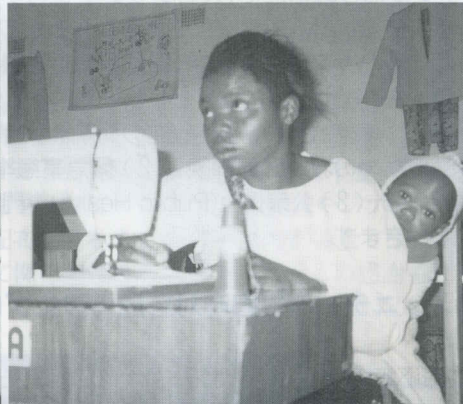
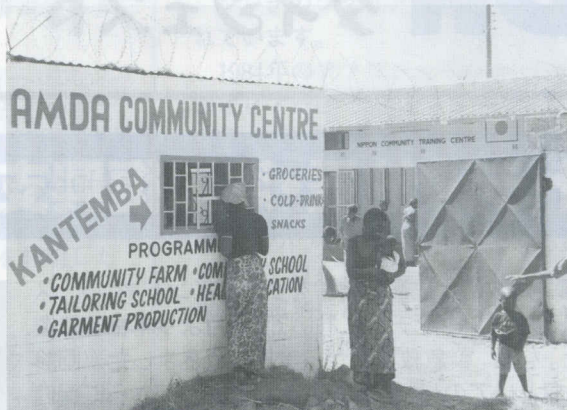
コミュニティ開発プロジェクト

包括的な開発ユニット 発展の可能性

AMDA ザンビアの保健と 農業開発のユニット

AMDAは1997年からザンビアのジョージ地区で活動していますが、一つの中心的な事業は栄養推進の事業です。保健省から農園用の約3ヘクタールの土地を借り、雨季にはボランティアの力を借りて大豆を栽培し、たんぱく質の豊富なものとして栄養の高い食生活を推進してきました。AMDAが栽培した大豆を栄養推進の住民組織に提供し、その住民組織がコミュニティを回り、大豆料理を教えながら安く大豆を提供することになっています。せっかくの広い農園は、雨季にしか使えていませんでした。農業の収益を上げ、自立運営を目指すために、2004年の年末から一年中(乾季でも)農業ができるように水道システムを導入し始めました。また、大豆だけでなく、トマト、キャベツ、玉ねぎ、茄子、オクラ、かぼちゃなど商品価値の高い多様な農作物の栽培を始めました。さらに養鶏所を二つ建て、全体的に利益が出せるビジネスに進化させるという狙いで少しずつ農園の開発を進めています。収益事業として成り立てば、その農園は栄養推進事業のための大豆をつくりながら結核事業(下記結核DOTSプロジェクト参照)をこれからもずっと支えていけることができます。

このように、AMDAはザンビアのジョージ地区での保健活動を経済活動とリンクさせました。保健活動を一つの開発ユニットに組み込んで金銭的にも組織的にも完全に自立運営できるような形を目指そうとしています。



AMDAは、同じ農園の敷地内での活動を行っています。裁縫教室・スクールです。裁縫教室では技術を学び経済的に自立した生活職業訓練を行っています。コミュニティでは、何らかの理由で学校に通いが公立の小学校と同じカリキュマます。

生徒からはわずかな授業料を、これは先生の給料、教科書、ミスなどの活動費を支えるほどの収めません。足りない活動費は農園のるとい形になります。そこで、生を中心に裁縫ビジネスを始めた。卒業生がトレーニングセンター、作業服、私服などを作って財を支えるための収入源ですが、卒業という意味もあって効果的裁縫ビジネスがあれば何人かに一昨な経験を与えることができます。な収入源として、同じ敷地内のターで小さな雑貨屋を始めました。鶏を販売すると同時に冷たい飲み

常雑貨なども販売してすべての活動をつなして長期的に考えると組織に頼らない現地自立した、栄養推進、結核保健教育、コミュニティ業訓練などと包括的なできる組織になります。て、AMDA ザンビアで開発事業、ビジネス、組織におけるシステムれています。(Vi

結核DOTSプロジェクト



結核という病気は日本では過去の病気というイメージがありますが、途上国ではとても深刻なもので、結核DOTS(直接監視下短期化学療法、Directly Observed Treatment Short-course)の導入によって一時的にその勢いが弱まったものの、HIV/エイズの出現によってアフリカ諸国を中心に爆発的に広まっています。

結核の治療には(ザンビアでは)、8ヶ月間、毎日薬を飲み続ける必要があり、その服薬を途中

で停止してしまうと薬剤耐性結核が発生して、地域の結核の状況はとても深刻なものになってしまいます。ザンビアでは途中で治療を止めてしまう患者が40%にもなっており、結核対策を進めていく上で大きな問題となっていました。結核DOTSプロジェクトというのは、サポーターといわれるボランティアが結核患者の服薬を8ヶ月間監視し、確実に結核患者を治療するという活動を主とした活動です。

AMDA ザンビアでは2004年2月から結核DOTSプロジェクトをジョージコンパウンド内で開始しました。ジョージコンパウンドは人口が12万人もいるルサカ市内でも最大のコンパウンドの一つで、コンパウンド内は27の小さなゾーンに分かれています。このプロジェクトでは対象地域をその内の6つのゾーンに絞り、2月に各ゾーンから4名ずつとジョージクリニックか

ら6名の合計30名に対してトレーニングサポーターを養成しました。実際年4月から始まり、以降患者の服の家族に対する健康教育、地域内の場所での健康教育、クリニックの補助、新規結核患者の発見などいます。サポーター達は地域の人の意思を持ってこのプロジェクトをやるのですが、今後は彼らにもっと体を見る視野を持ってもらいたく地域の結核患者のデータ収集と分たトレーニングも行っています。名を超える結核患者がこのプロジェクトで、80名以上が治療を終えることまた、2004年に登録された患者治療を止めてしまった患者の割合ることができました。

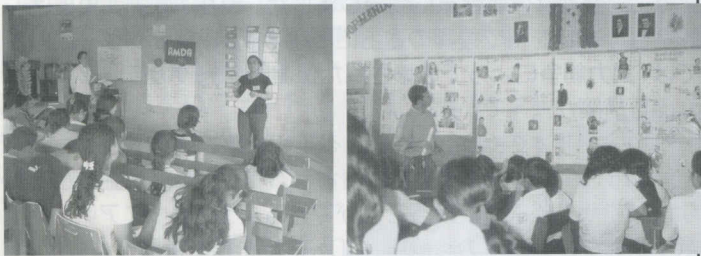
国際ボランティア貯金寄附金の配分決定

平成17年度国際ボランティア貯金寄附金の配分が決定しました。

昨年度に引き続き、ホンジュラスの青少年に対するHIV/エイズ予防教育プログラムへ2,506,000円の配分をいただけることとなりました。ホンジュラスは、中南米でもHIV感染率の高い国で、特に青少年の感染拡大が深刻な問題となっています。AMDAは、青少年が自ら考え、HIV感染を予防する行動がとれるよう、ゲーム、工作、グループワークなどを利用した参加型の教育を行っています。

AMDA ホンジュラス青少年育成プロジェクト

ホンジュラスの首都テグシガルパ市において、小中学校生徒、教師を対象に青少年育成プログラム及びエイズ予防教育を行っています。青少年育成プログラムでは、性教育とともに、個人の価値観の創造と向上、将来の展望を含めた教育プログラムを実施しています。さらに、「若者が若者を救う」と題して青少年リーダー育成を行い、彼らが同世代の若者に対し、性、エイズ予防に関する情報を正しく伝えることができるようにセミナーを開催しています。また、エイズ予防啓発活動の一環として、世界エイズデーや同国の青少年週間には、キャンペーンを行い、エイズ予防を呼びかけています。



皆様の中には国際ボランティア貯金に加入されている方も多くいらっしゃると思います。AMDAでは平成3年から継続して、様々な国のプロジェクトで活用させていただいております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(田中 一弘)

アフリカへ毛布をおくる運動

ジブチのソマリア・エチオピア難民キャンプでも大切に使われています。

1984年のアフリカ大旱魃は、未曾有の被害をもたらした。エチオピアだけでも100万人を超える死者が出たとの報告もあります。この危機状況に、当時のUNICEFグラント事務局長が全世界に対して救援物資「毛布」の緊急アピールを行い、それを受けた日本政府は、100万枚の毛布援助を行うことを表明し、官民合同の「アフリカへ毛布をおくる運動」プロジェクトが発足しました。以来20年間を経過し、2004年までに24ヶ国へ337万枚の毛布が送られてきました。

この運動の推進委員会は、アフリカ協会、立正佼成会、JHP・学校をつくる会、日本国際ボランティアセンター (JVC) とAMDAを構成団体とし、外務省、国連広報センター (UNIC)、WFP日本事務所、UNHCR駐日地域事務所からのご後援をいただき、また実際の輸送業務を行っていただく日本通運株式会社を協力団体として運営されています。



日本から送られる毛布は品質もよく、現地では非常に喜ばれています。高地では日中40℃もの気温が、朝晩は3℃にも下がるなど寒暖の差が激しく、1枚の毛布が日除けにも防寒にも役に立つ。雨が降れば傘にも、乳児のお包みにも、床の敷物にも早変わりする。その用途は多岐にわたり、人々は送られた毛布を大切に長く使っています。

AMDAは1994年から構成団体のひとつとして参加させていただき、実際にジブチでの配布も行っています。運輸サービス以外の産業に乏しいこの国は輸入に依存しているため物価が高く、日々の生活に困窮する人々が毛布を購入することはとてもむずかしい現状にあります。2004年度までに延べ108,000枚の毛布をソマリア・エチオピア難民やジブチ市内の病院や孤児院に配布してきました。これまでのみなさまのご理解とご好意そして関係諸団体のご尽力に心からの感謝を申し上げます。今後も変わらぬご支援をいただけたら幸いです。

(新井 理映子)

AMDA プロジェクトへのご支援をお願いします

AMDAでは現在15カ国において中長期的な社会開発事業を実施しています。(AMDAホームページ <http://www.amda.or.jp>) 6月より新たにスマトラ沖地震・津波復興支援活動をインドネシアで開始しました。



このインドネシアでの活動のように、最初は自然災害や紛争の被災者(難民)への緊急救援活動として始まった活動ですが、復興期を迎えた段階で、住民の声や周囲の環境を調査しながら、保健医療面や生活環境向上面からの長期支援へと移行していったプロジェクトも多く

あります。ジブチのソマリア・エチオピア難民支援、パキスタンのアフガン難民支援、ハリケーンミッチ後のホンジュラスのコミュニティ開発支援、その他ネパール、カンボジア、バングラデシュ等です。世界には平和を阻害する戦争、災害、貧困に苦しんでいる多くの人々がいます。AMDAは今後も、事業の充実を図りながら活動を継続していきます。皆さまのご支援をお願いいたします。

AMDAへのご寄附の際には、同封の郵便払込票をご利用ください。特定寄附の場合にはご支援くださる国名やプロジェクト名を、連絡欄にご記入ください。

郵便払込 口座番号 01250-2-40709
口座名 AMDA

*書き損じハガキ、未使用ハガキ・切手を集めています。

〒701-1202
岡山市橋津310-1
AMDA宛

書き損じハガキは切手と交換し、通信費として使用させていただきます。

 株式会社 道 徳 神
The Travelers Guardian Inc.

〒108-0014 東京都港区芝5-13-18 MTCビル9階
TEL: 03-3455-6111 FAX: 03-3455-2442
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25 ハービス PLAZA3 階
TEL: 06-6343-7725 FAX: 06-6343-6328
ホームページ: <http://www.dososhin.com>
メールアドレス: info@dososhin.com